

# 商工会議所LOBO(早期景気観測)

— 2010年5月調査結果 —



2010年5月31日

## 業況DIのマイナス幅は5カ月連続で縮小

### <結果のポイント>

- ◇5月の全産業合計の業況DIは▲39.7(前月比+6.0ポイント)と、マイナス幅が5カ月連続で縮小した。DIがマイナス30台を記録したのは2007年11月以来、2年6カ月ぶり。比較対象となる昨年5月の業況DIが▲65.7と、極めて低い水準であったという要因はあるものの、製造業を中心に、着実に持ち直しの動きが続いている。しかし、景気回復の自律性はまだ乏しく、競争激化による低価格受注や、消費者の低価格志向を意識した値下げ競争により、採算面では厳しい状況が続いている。各地からは、「景気回復はまだ実感できない」との声が寄せられている。
- ◇業種別では、全ての業種でマイナス幅が縮小した。特に製造業では、輸出関連企業を中心に受注が増加傾向にあり、小売業やサービス業の一部では、消費が回復の兆しを見せている。また、建設業でも、水準は低いものの、住宅エコポイント制度を活用したリフォームを中心に持ち直しの動きが出ている。ただし、全ての業種において、原材料価格の上昇や高止まりに対し、価格転嫁が難しく、収益に悪影響を及ぼしている。
- ◇項目別では、仕入単価DIは、鉄鋼など原材料価格の上昇を背景に、4カ月連続でマイナス幅が拡大した。売上DI、採算DIは、建設業は依然として低水準であるものの、全ての業種でマイナス幅が縮小、資金繰りDI、従業員DIのマイナス幅も着実に縮小している。
- ◇先行きについては、▲36.5(前月比+2.6ポイント)と、5カ月連続でマイナス幅が縮小した。全ての業種で、受注・売上に回復の兆しが出ている。先行きに期待する声も出ている。しかし、一部原材料価格の上昇や公共工事の減少に加え、急激な円高、宮崎県における口蹄疫の影響拡大が今後の懸念材料となっており、先行き見通しには慎重な声が根強い。

### 調査要領

○調査期間 2010年5月17日～21日

○調査対象 全国の409商工会議所が2655業種組合などにヒアリング

(内訳) 建設業:391 製造業:626 卸売業:241 小売業:745 サービス業:652

○調査項目 今月の業況・売上・採算などについての状況および業界として直面する問題等

#### ※DI値(景況判断指数)について

DI値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景況感の相対的な広がりを意味する。

$$DI = (\text{増加・好転などの回答割合}) - (\text{減少・悪化などの回答割合})$$

業況・採算:(好転) - (悪化)      売上:(増加) - (減少)

【本件照会先】産業政策第一部 TEL:03-3283-7839 E-Mail:sangyo1@jcci.or.jp

<http://www.jcci.or.jp/lobo/lobo.html>

## ＜産業別の特徴的な動き＞

産業別にみると、公共工事の減少や原材料価格の上昇等が影響した建設業は依然として低水準であるものの、業況D Iのマイナス幅は全ての業種で縮小した。

地元自治体（市町村）の公共事業の発注状況については、「今のところ発注予定はない」との声が約65%を占めて最も多く、「すでに発注が出ている」（10%）、「発注計画がある」（25%）を大きく上回っている。

また、「仕入価格の上昇分の販売価格への転嫁」については、転嫁は困難との声が6割以上である一方、実際に価格転嫁できているとの声は1割程度に留まっている。

今後の経営見通しについては、経営環境は厳しいものの、なんとか持ちこたえられそうだとの声が6割強に及んでいる一方、廃業を視野に入れなければならないほど厳しいとの声も1割程度あった。

各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

DI値(前月比)    ↑ マイナス幅縮小    ↓ マイナス幅拡大

### 【建設業】

業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
↑	↑	↑	↑	↓	↑

- ・「人件費等を抑制して急場をしのいできたが、このまま公共工事を削減され続けると廃業も視野に入れなければならない」（建築工事業）
- ・「住宅建設はリフォームを中心に多少動きが見られる」（一般土木建築工事業）
- ・「住宅エコポイント制度による特需でどうにか持ちこたえている」（電気工事業）

### 【製造業】

業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
↑	↑	↑	↑	↓	↑

- ・「原材料の糸が急騰している一方、製品価格は上がっておらず、今後相当厳しい状況になりそう」（織物業）
- ・「鋼材価格が値上がりしているが、他の原材料価格を抑えることで採算を何とか維持している」（建設機械・鉱山機械製造業）
- ・「少しずつではあるが受注回復の兆しが出ており、業況の悪化に歯止めがかかっている」（金属加工機械製造業）

### 【卸売業】

業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
↑	↑	⇔	↑	↓	↑

- ・「稀にみる遅霜などの影響で野菜価格が高騰し、売上が伸び悩んでいる」（農畜産物・水産物卸売業）
- ・「5月になっても3週連続で燃料油の仕入価格が上昇しているが、相変わらず販売競争が激しく、小売価格に転嫁できず苦しい状況」（化学製品卸売業）
- ・「新規顧客の獲得よりも、既存顧客のサービス需要の掘り起こしに努めている」（自動車卸売業）

### 【小売業】

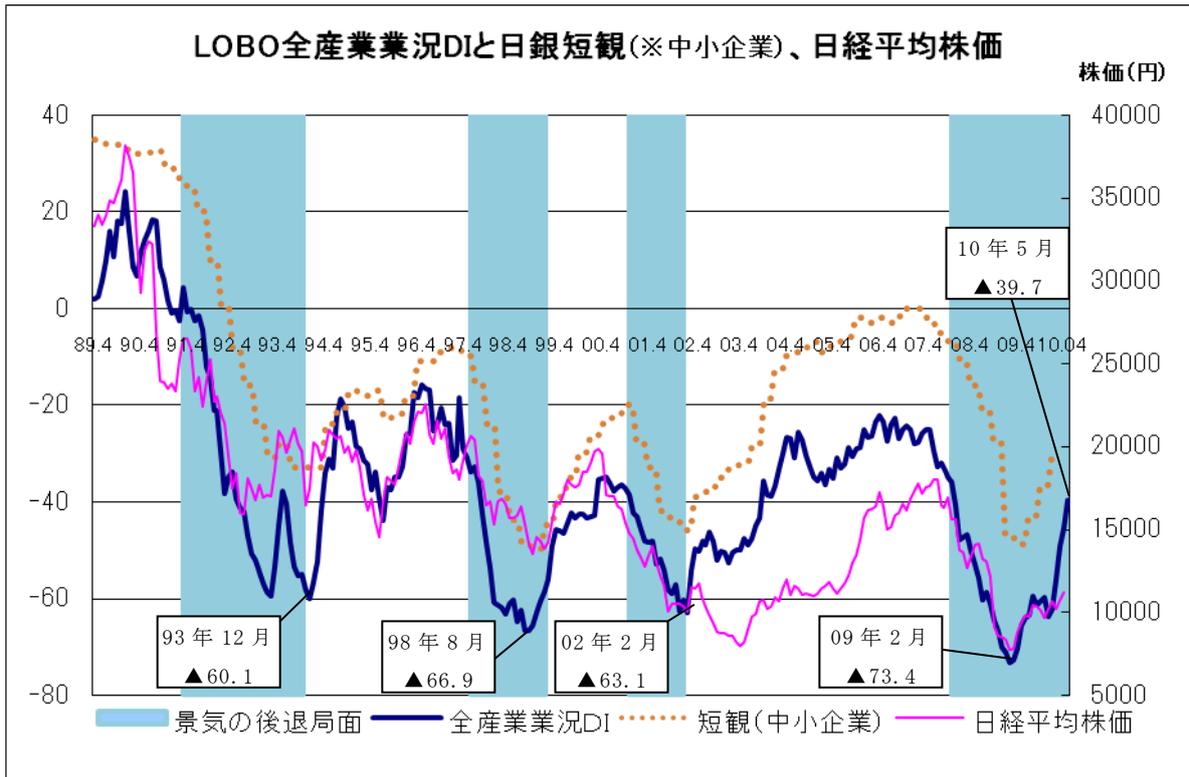
業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
↑	↑	↑	↑	⇔	⇔

- ・「ファッション業界では、長引く不景気と春先の天候不順により、消費の回復が遅い」（その他の小売業）
- ・「ゴールデンウィークが好転に恵まれたこともあり、ドライブグッズの売上が好調であった」（その他の小売業）
- ・「美術・宝飾・時計等の高額商品に僅かながら売上回復の兆しが見られた」（百貨店、総合スーパー）

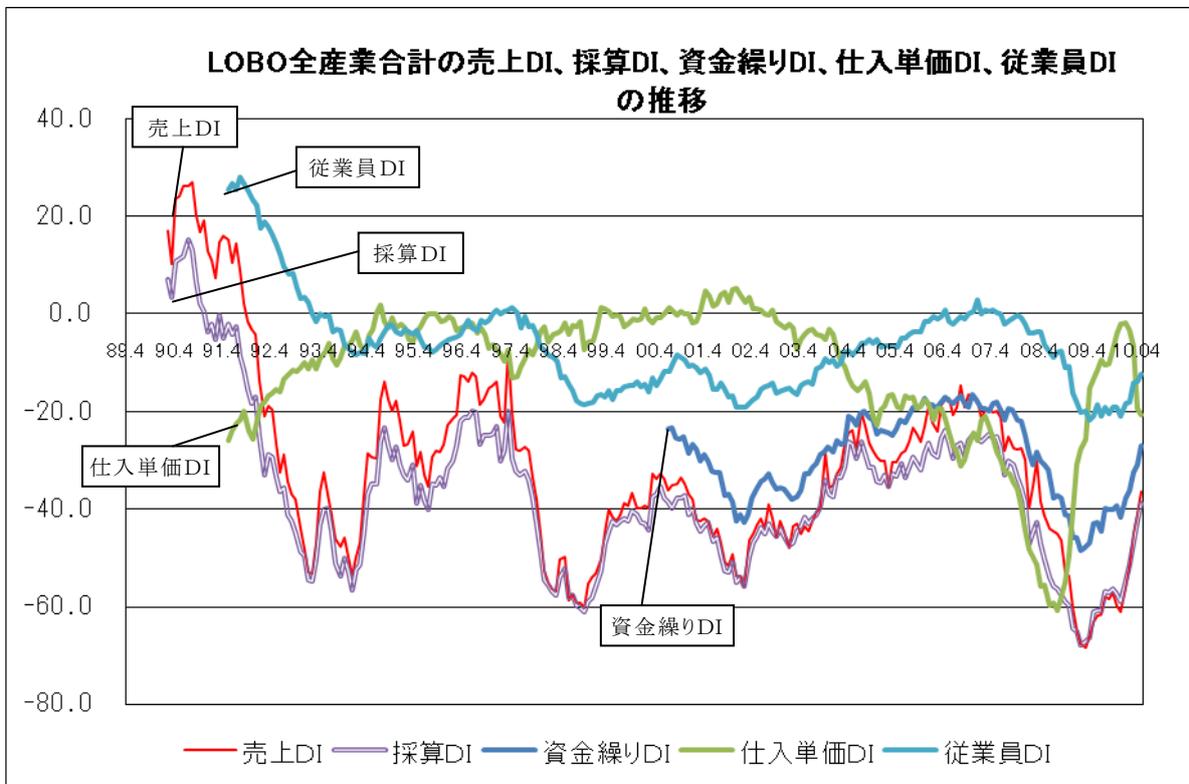
### 【サービス業】

業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
↑	↑	↑	↑	↑	↑

- ・「昼の売上は安定しているが、夜の客足が非常に悪くなっている」（食堂、レストラン）
- ・「若干ではあるが前年に比べて宿泊数が増加した」（旅館）
- ・「貨物量や輸送量に改善の兆しが見られる」（その他のサービス業）



※短観(中小企業)：資本金2千万円以上の企業が調査対象



### 【業況についての判断】

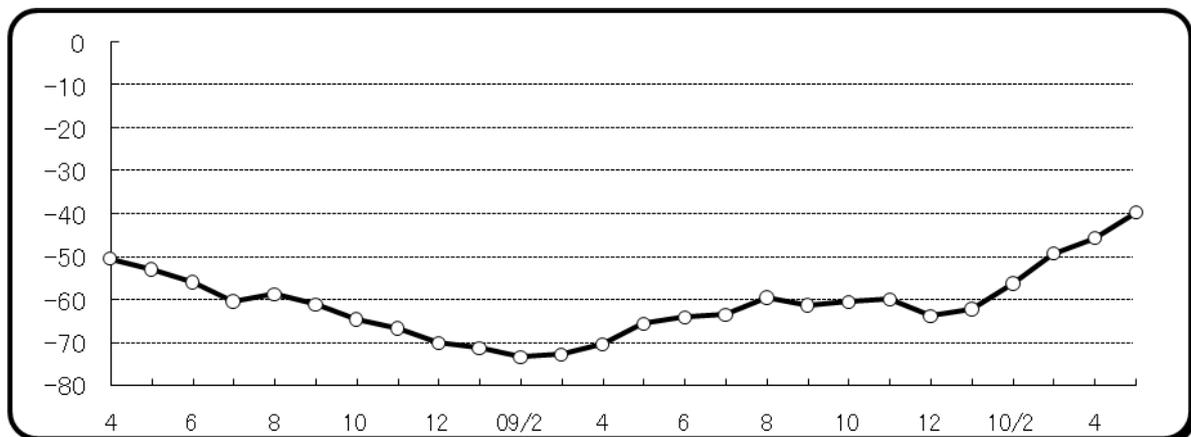
- 5月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は▲39.7（前月比+6.0ポイント）と、5カ月連続でマイナス幅が縮小した。比較対象となる昨年5月の業況DIが▲65.7と低水準であったという要因はあるものの、製造業を中心に、着実に持ち直しの動きが続いている。
- 産業別にみると、公共工事の減少や仕入価格の上昇等が影響した建設業は依然として低水準であるものの、DI値のマイナス幅は全ての業種で縮小した。
- 向こう3カ月（6～8月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI（今月比ベース）が▲36.5と前月（▲39.1）と比べ+2.6ポイントとなり、5カ月連続でマイナス幅が縮小した。
- 産業別に先行き見通しをみると、前月と比べ、サービス業はほぼ横ばいとなったものの、他の4業種はマイナス幅が縮小した。

業況DI(前年同月比)の推移

	09年 12月	10年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6～8月
全産業	▲63.8	▲62.3	▲56.2	▲49.3	▲45.7	▲39.7	▲36.5 (▲39.1/▲53.9)
建設	▲62.4	▲63.9	▲61.4	▲52.6	▲59.6	▲55.3	▲53.7 (▲58.3/▲60.8)
製造	▲59.4	▲58.0	▲47.4	▲35.6	▲30.6	▲25.4	▲27.2 (▲30.0/▲51.3)
卸売	▲67.1	▲58.3	▲57.1	▲50.0	▲48.5	▲34.6	▲27.6 (▲33.8/▲50.0)
小売	▲71.7	▲69.5	▲62.7	▲57.7	▲50.9	▲46.0	▲38.8 (▲40.9/▲55.9)
サービス	▲58.6	▲59.1	▲54.5	▲52.1	▲45.5	▲39.5	▲36.1 (▲35.8/▲51.3)

※「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しDI  
 ( )内左側(網かけ)は前月(4月)の先行き見通しDI  
 ( )内右側は昨年5月の先行き見通しDI

《業況DI(全産業・前年同月比)の推移》



### 【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

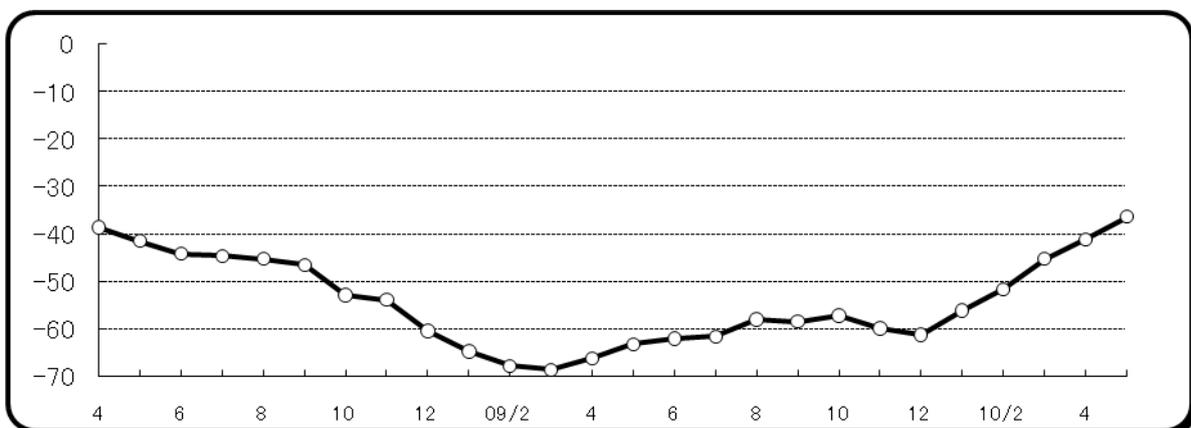
- 売上面では、全産業合計の売上D Iは、▲36.4（前月比+4.7ポイント）と、5カ月連続でマイナス幅が縮小した。産業別にみても、全ての業種でマイナス幅が縮小した。特に、製造業は、受注が増加傾向にあり、小売業やサービス業の一部では、消費が徐々に回復しているなどの声が寄せられている。
- 向こう3カ月（6～8月）の先行き見通しについては、全産業合計の売上D I（今月比ベース）が▲32.6と、前月（▲36.3）に比べ+3.7ポイントとなり、5カ月連続でマイナス幅が縮小した。
- 産業別に先行き見通しをみると、前月と比べ、卸売業は横ばいとなったものの、その他の4業種でマイナス幅が縮小した。受注や来客数の増加など、好転の兆しが見えることから、先行きに期待する声が多い。

### 売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

	09年 12月	10年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6～8月
全産業	▲61.2	▲56.1	▲51.6	▲45.2	▲41.1	▲36.4	▲32.6 (▲36.3/▲50.0)
建設	▲54.6	▲52.1	▲46.4	▲44.7	▲59.5	▲51.1	▲54.8 (▲60.3/▲51.9)
製造	▲59.0	▲51.8	▲39.0	▲29.4	▲20.0	▲17.0	▲20.7 (▲28.6/▲45.5)
卸売	▲68.5	▲65.5	▲60.7	▲49.3	▲45.5	▲41.0	▲23.9 (▲23.9/▲43.1)
小売	▲68.2	▲61.5	▲62.3	▲56.4	▲48.9	▲46.9	▲35.4 (▲36.4/▲53.3)
サービス	▲56.7	▲53.1	▲52.7	▲47.6	▲40.4	▲33.2	▲30.7 (▲33.0/▲52.1)

- ※「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しD I  
 ( ) 内左側（網かけ）は前月（4月）の先行き見通しD I  
 ( ) 内右側は昨年5月の先行き見通しD I

### 《売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移》



### 【採算の状況についての判断】

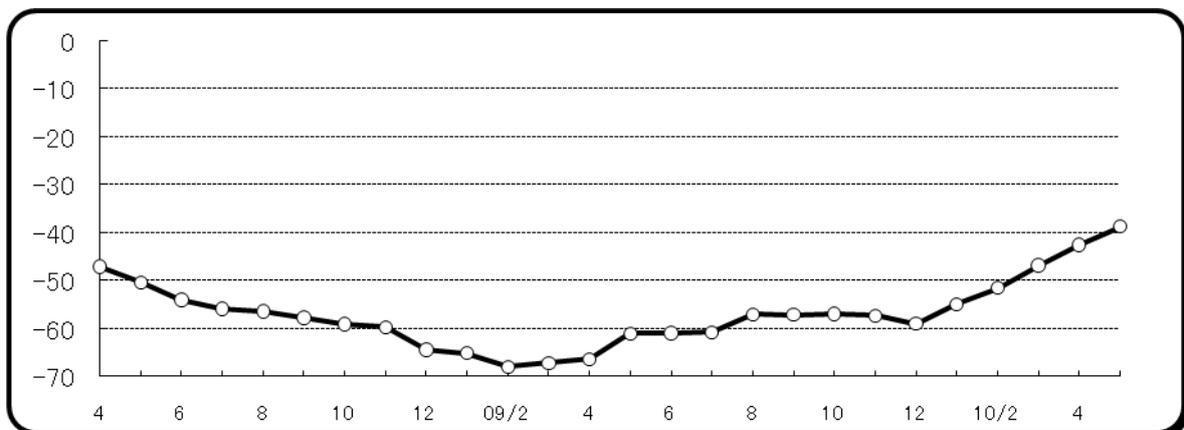
- 採算面では、全産業合計の採算D Iは、▲38.8（前月比+3.8ポイント）と、5カ月連続でマイナス幅が縮小した。産業別にみると、卸売業はほぼ横ばいとなったものの、その他の4業種でマイナス幅が縮小した。仕入価格の上昇に対し、売上の回復が寄与しているとみられる。
- 向こう3カ月（6～8月）の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I（今月比ベース）が▲34.4と、前月（▲38.8）と比べ+4.4ポイントとなり、5カ月連続でマイナス幅が縮小した。
- 産業別に先行き見通しをみると、前月と比べ、サービス業はほぼ横ばいとなったものの、その他の4業種でマイナス幅が縮小した。

### 採算D I（前年同月比）の推移

	09年 12月	10年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6～8月
全産業	▲59.0	▲54.9	▲51.5	▲46.9	▲42.6	▲38.8	▲34.4 (▲38.8/▲51.6)
建設	▲58.1	▲58.4	▲58.6	▲51.6	▲57.7	▲52.3	▲51.8 (▲53.1/▲55.3)
製造	▲56.9	▲51.7	▲42.3	▲33.9	▲31.9	▲26.4	▲30.2 (▲36.0/▲51.4)
卸売	▲62.2	▲56.8	▲55.0	▲44.0	▲35.1	▲34.3	▲19.4 (▲30.8/▲43.8)
小売	▲61.7	▲58.0	▲56.3	▲54.2	▲48.5	▲45.4	▲32.6 (▲37.9/▲53.2)
サービス	▲57.2	▲51.6	▲49.7	▲50.6	▲39.8	▲37.4	▲35.4 (▲36.3/▲50.4)

- ※「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しD I  
 ( ) 内左側（網かけ）は前月（4月）の先行き見通しD I  
 ( ) 内右側は昨年5月の先行き見通しD I

### 《採算D I（全産業・前年同月比）の推移》



(参考)

資金繰りD I（前年同月比）の推移

	09年 12月	10年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6～8月
全産業	▲41.8	▲37.9	▲36.2	▲32.6	▲31.1	▲27.1	▲25.6 (▲31.0/▲38.5)
建設	▲49.8	▲44.9	▲42.5	▲42.7	▲40.6	▲39.4	▲39.7 (▲42.0/▲45.4)
製造	▲48.7	▲44.2	▲37.3	▲27.6	▲26.0	▲23.3	▲24.3 (▲31.1/▲47.6)
卸売	▲32.6	▲26.9	▲26.5	▲25.0	▲25.6	▲21.1	▲18.0 (▲24.2/▲32.4)
小売	▲37.0	▲33.6	▲35.4	▲33.1	▲32.8	▲28.5	▲23.6 (▲29.1/▲31.9)
サービス	▲38.2	▲35.9	▲35.9	▲33.7	▲30.3	▲24.1	▲23.3 (▲28.3/▲34.6)

$$D I = (\text{好転の回答割合}) - (\text{悪化の回答割合})$$

【前年同月比D I】全産業合計の資金繰りD Iは▲27.1となり、マイナス幅は5カ月連続で縮小した。産業別にみても、全ての業種でマイナス幅が縮小した。

【先行き見通しD I】全産業合計の先行き見通しをみると、前月と比べ、マイナス幅は縮小する見通し。産業別にみても、全ての業種でマイナス幅が縮小する見通し。

仕入単価D I（前年同月比）の推移

	09年 12月	10年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6～8月
全産業	▲2.3	▲2.0	▲3.5	▲6.8	▲19.4	▲20.9	▲20.2 (▲21.2/▲10.8)
建設	▲10.6	▲12.4	▲12.3	▲11.8	▲26.5	▲31.2	▲26.0 (▲30.1/▲16.8)
製造	▲5.8	▲6.5	▲8.7	▲13.4	▲23.5	▲25.9	▲31.6 (▲32.1/▲10.1)
卸売	14.0	12.2	12.9	3.8	▲11.2	▲17.3	▲11.3 (▲3.0/▲9.8)
小売	5.0	6.5	4.8	2.3	▲9.8	▲10.0	▲9.9 (▲10.1/▲7.0)
サービス	▲8.5	▲6.3	▲8.5	▲11.5	▲24.7	▲22.8	▲19.5 (▲23.9/▲12.4)

$$D I = (\text{下落の回答割合}) - (\text{上昇の回答割合})$$

【前年同月比D I】全産業合計の仕入単価D Iは▲20.9と、4カ月連続で上昇感が強まった。鉄鋼など原材料価格の上昇や高止まりが影響し、前月同様、高水準で推移した。

【先行き見通しD I】全産業合計の先行き見通しをみると、前月と比べ上昇感はほぼ横ばいとなる見通し。産業別にみると、建設業とサービス業で上昇感が弱まる見込みであるものの、依然として高水準で推移する見通し。

従業員D I（前年同月比）の推移

	09年 12月	10年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6～8月
全産業	▲21.2	▲18.6	▲18.3	▲14.2	▲14.1	▲12.4	▲10.8 (▲13.2/▲18.5)
建設	▲30.3	▲28.0	▲24.0	▲24.4	▲27.6	▲23.3	▲25.6 (▲29.2/▲36.3)
製造	▲31.4	▲25.9	▲24.2	▲15.8	▲16.7	▲15.5	▲12.2 (▲17.3/▲21.1)
卸売	▲25.2	▲25.2	▲23.0	▲20.9	▲15.0	▲12.8	▲11.2 (▲13.4/▲19.4)
小売	▲14.4	▲12.3	▲15.5	▲9.5	▲9.7	▲9.2	▲7.4 (▲6.2/▲10.0)
サービス	▲10.9	▲9.3	▲9.3	▲8.6	▲7.2	▲5.6	▲3.6 (▲6.0/▲13.4)

D I = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計の従業員D Iは、▲12.4と、5カ月連続で過剰感が弱まった。産業別にみると、小売業でほぼ横ばい、その他の4業種は過剰感が弱まった。

【先行き見通しD I】全産業合計の先行き見通しをみると、前月と比べ、過剰感は弱まる見通し。産業別にみると、小売業を除く4業種で過剰感が弱まる見通し。

※「先行き見通し」は当月に比べた向こう3カ月の先行き見通しD I  
 ( ) 内左側(網かけ)は前月(4月)の先行き見通しD I  
 ( ) 内右側は昨年5月の先行き見通しD I

## 【2010年5月の景気キーワード】

### ○仕入価格の上昇・高止まりによる影響

原材料価格の上昇・高止まりに対し、価格転嫁が難しく、収益への悪影響を訴える声が多く寄せられた。

- ・「原材料価格の値上がりが続いているが、取引先への価格交渉が進まないため、収益が圧迫されている」（佐野・金属加工機械製造業）
- ・「今年4月に原材料の値上がりがあったが、その値上げ分を未だ転嫁できていない。7月に再値上げが行われる見通しであり、先行きは非常に厳しい」（習志野・その他金属製品製造業）
- ・「仕入価格が上がっているが、販売価格に転嫁すると客離れが起きる可能性があるため、我慢せざる得ない状況である」（海老名・その他の一般飲食店）

### ○根強い消費者の低価格志向

消費者の低価格志向は依然として根強く、購入単価の低迷による売上の悪化などの悪影響を訴える声が多い。

- ・「見積り依頼が増加しているものの、消費者の低価格志向の影響もあってか、その大半が受注に結びついていない」（静岡・各種商品卸売業）
- ・「低価格競争が一段と厳しさを増しており、販売単価の回復はなかなか望めない状況」（札幌・百貨店、総合スーパー）
- ・「ゴールデンウィークは曜日の配列がよかったため宿泊客は増えたものの、宿泊料金の低価格競争により経営環境は年々厳しくなっている」（那覇・旅館）

### ○受注・売上に回復の兆し

受注・購入単価は低迷が続いているものの、製造業における受注量や百貨店における来客数などに回復の兆しが出ているとの声が寄せられている。

- ・「業況は依然厳しいが、輸出関連の金属加工では、欧州からの受注に少し回復の兆しが出てきた」（さいたま・金属加工機械製造業）
- ・「商店街全体を見たとき、特売日に目玉商品だけを買って帰る人もいるが、全体的には個人消費が回復しているように見られる」（鎌倉・商店街）
- ・「美術・宝飾・時計等の一部高額商品の売上が僅かながら回復傾向にある」（静岡・百貨店、総合スーパー）

#### 【景気キーワードの推移】

年 月	景気キーワード		
09年12月	膨らむ先行き不安	デフレの進行	雇用情勢のさらなる悪化
10年 1月	続く先行き不安	デフレの深刻化	依然として厳しい雇用情勢
2月	続く先行き不安	デフレの深刻化	依然として厳しい雇用情勢
3月	根強い先行き不安	デフレの深刻化	依然として厳しい雇用情勢
4月	仕入価格の上昇への懸念	根強い消費者の低価格志向	依然として厳しい雇用情勢
5月	仕入価格の上昇・高止まりによる影響	根強い消費者の低価格志向	受注・売上に回復の兆し

※景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関する自由回答をまとめたもの。本文中の（ ）内は、(地名・業種)を示す。

### 【ブロック別概況】

○ ブロック別の業況D I（前年同月比ベース）は、九州を除く8地域でマイナス幅が縮小した。業況が悪化した九州は、宮崎県で発生した口蹄疫の被害拡大による食肉の供給や価格高騰、風評被害への懸念等が影響しているとみられる。一方、関東は、他の地域に比べ消費が回復傾向にあるなどの要因から、マイナス幅が大幅に縮小した。

○ ブロック別の向こう3カ月（6～8月）の業況の先行き見通しは、前月と比べ、北海道と四国でマイナス幅が拡大したものの、近畿で横ばい、その他の6地域では縮小した。

ブロック別・全産業業況D I（前年同月比）の推移

	09年 12月	10年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6～8月
全 国	▲63.8	▲62.3	▲56.2	▲49.3	▲45.7	▲39.7	▲36.5 (▲39.1/▲53.9)
北 海 道	▲48.9	▲47.7	▲42.7	▲38.8	▲44.0	▲38.1	▲39.3 (▲36.9/▲45.9)
東 北	▲60.0	▲58.4	▲52.9	▲48.7	▲44.2	▲39.4	▲34.9 (▲45.1/▲54.6)
北陸信越	▲68.7	▲71.3	▲66.7	▲53.7	▲46.7	▲43.6	▲32.9 (▲35.5/▲50.9)
関 東	▲62.8	▲57.7	▲55.8	▲44.1	▲42.8	▲32.1	▲32.2 (▲35.6/▲53.0)
東 海	▲62.8	▲62.5	▲47.8	▲50.4	▲46.2	▲42.8	▲35.3 (▲41.3/▲55.8)
近 畿	▲65.1	▲68.1	▲59.9	▲60.4	▲48.1	▲41.4	▲37.2 (▲37.2/▲60.8)
中 国	▲77.7	▲71.8	▲58.5	▲50.5	▲53.6	▲49.1	▲42.2 (▲46.4/▲59.8)
四 国	▲54.5	▲59.7	▲53.2	▲36.9	▲41.5	▲33.3	▲41.3 (▲39.0/▲47.0)
九 州	▲67.9	▲63.9	▲60.3	▲59.0	▲48.9	▲49.7	▲42.8 (▲44.0/▲54.3)

※「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しD I  
 ( ) 内左側（網かけ）は前月（4月）の先行き見通しD I  
 ( ) 内右側は昨年5月の先行き見通しD I

【ブロック別・特徴的なコメント】

産 業	概 況
北海道	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「公共工事、民間工事とも受注の増加が見込めないうえ、例年より発注が遅れており、経営環境は一層厳しくなっている」（一般土木建築工事業）</li> <li>・「加工用輸入原材料の確保において、中国商社との買い付け競争が起こり、原材料価格が高騰している」（水産食料品製造業）</li> <li>・「5月の連休後、ようやく衣替えによるクリーニングが増えてきている」（洗濯業）</li> </ul>
東北	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「厳しい状況が続き、人員の削減や雇用調整を行っている」（建築工事業）</li> <li>・「業況が好転しない中で原材料価格が毎月のように値上がりしている」（建設用・建築用金属製品製造業）</li> <li>・「天候不順による影響もあり、衣料品を中心に厳しい状況が続いている」（百貨店、総合スーパー）</li> </ul>
北陸信越	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「民間の設備投資や公共工事の縮減により、建設業界の経営状況は厳しさを増している」（建築工事業）</li> <li>・「ゴールデンウィークは天気も良く、連休が続いたので、売上が伸びたが、5月10日以降は極端に売上が減少している」（食堂、レストラン）</li> <li>・「売上はいくらか回復傾向にあるが、燃料費が上昇しているため、採算面は悪化している」（運送業）</li> </ul>
関東	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「鉄鋼・金属等の資材価格の高騰やダンピングの横行により、体力のない企業が淘汰されている」（一般土木建築工事業）</li> <li>・「住宅建設の増加に伴い、建築塗装の依頼も僅かながら増えており、企業収益の増加が見込まれる」（塗装工事業）</li> <li>・「消費ムードも一時期の停滞感から脱し、徐々に好転の兆しが見え始めている」（商店街）</li> </ul>
東海	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「これまで中国に移転していた工作機械関係の仕事が日本に戻り、今月に入り親会社からの発注を受けている」（鉄素形材製造業）</li> <li>・「売上高は増加しているが、仕入単価の高騰により利益が減少しており、資金繰りに苦慮している」（自動車・同附属品製造業）</li> <li>・「原材料価格の高騰や格安輸入商品等との価格競争により、業界を取り巻く環境は依然として厳しいままである」（陶磁器・同関連製品製造業）</li> </ul>
近畿	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「円高により輸出市場での価格競争が厳しい」（繊維機械製造業）</li> <li>・「連休以降も引き続き中心商店街に観光客や来街者が多数集まり、遊技場や軽食堂等のサービス業が潤っている」（商店街）</li> <li>・「6月から全面施行される改正貸金業法による消費への影響が心配」（百貨店、総合スーパー）</li> </ul>
中国	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「前月同様期初は新規発注がなく、総じて収益状況、資金繰りとも厳しい状況」（一般土木建築工事業）</li> <li>・「宮崎県における口蹄疫の影響で、肉牛の供給に滞りが出るのではないかと懸念している」（食堂、レストラン）</li> <li>・「連休から夏、秋にかけて各種スポーツ関連行事が開催されるため、8月を中心に予約が入ってきている」（旅館）</li> </ul>
四国	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「見本市を開催したが、来場者は昨年よりも芳しくなく、商談の件数も減少した」（漆器製造業）</li> <li>・「運搬機等の業種は、ほとんどの事業所で一段と厳しさが増している」（一般産業用機械・装置製造業）</li> <li>・「近所の競合店が撤退したため、今年いっぱいには売上が増加する見通しである」（百貨店、総合スーパー）</li> </ul>
九州	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「公共工事の更なる縮減と発注遅延により、これから倒産・廃業する企業が多発しそうである」（一般土木建築工事業）</li> <li>・「原木価格は値上がりしているが、製品単価が上がらないため、製材業界は厳しい状況である」（建築材料卸売業）</li> <li>・「宮崎県における口蹄疫の被害拡大による食肉価格の高騰が懸念される」（その他の一般飲食店）</li> </ul>